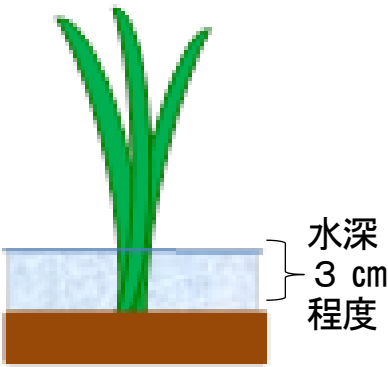


気象変動に負けないコシヒカリを作ろう!! ～「R7 JAなのはな米品質向上運動」実施中～

- 高品質な“なのはな米”の生産に向け、稲体を支える土台となる「根」をしっかり育てることが大切です。
- 水管理や溝掘り・中干しなど生育に応じた栽培管理を適切に行いましょう。

中干しまでの水管理

○中干しまでは、基本、浅水管理（水深3cm程度）を行い、初期分げつを確保しましょう。



＜浅水管理のポイント＞

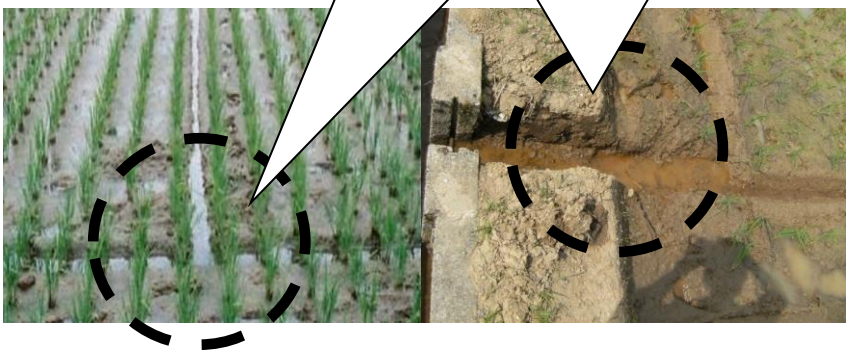
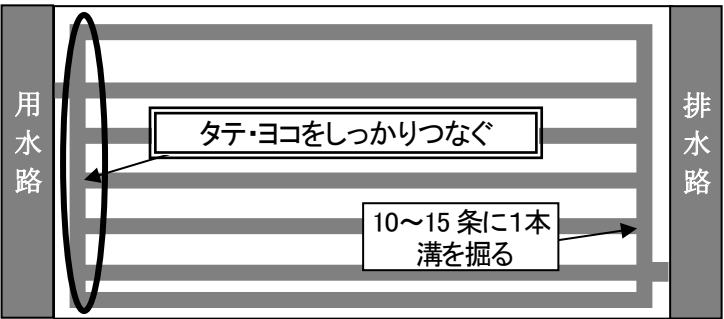
- ・入水は、早朝か夕方に行い、日中は止水で田水温の上昇に努めましょう。
- ・強風や低温時には、5cm程度の深水とし、天気の回復後は速やかに浅水管理に戻しましょう。
- ・藻が発生している場合は、水の入れ換えを行いましょう。また、田がわいている場合は、1～2日程度の軽い田干しを行いましょう。

溝掘り

- 溝掘りは、中干しの効果を高めるだけでなく、生育ムラの解消や入排水の効率を良くします。
- 田植後3週間頃（5月15日田植えの場合、6月上旬まで）に必ず溝掘りを行いましょう。

＜溝掘りのポイント＞

- ・溝掘り前に軽い田干しを行い、10～15条に1本の割合で溝を掘りましょう。
- ・タテ溝とヨコ溝を確実につなぎ、排水口に連結しましょう。
- ・溝掘り後は、連結状況や溝の崩れがないか確認しましょう。



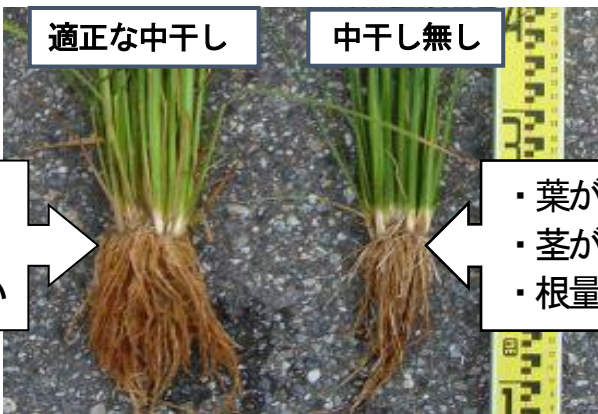
溝掘りをしないと、ほ場内の乾きにくい場所で排水が遅れ、収穫作業に支障をきたす恐れがあります。



溝掘り未実施ほ場の収穫時の水たまり

中干し

- 6月に入ると根の伸長が活発になります。田植後4週間までに中干しを遅れずに開始して、直下根をしっかり伸ばすとともに無効分げつの発生を抑えましょう。
- 収穫時に必要な地耐力の確保に努め、この時期に確実に田面を固めましょう。



- ・葉が直立
- ・茎が太い
- ・根量が多い

- ・葉が枯れる
- ・茎が細い
- ・根量が少ない

＜中干しの目安＞

	普通乾田	水はけの悪いほ場、粘土質田・大豆跡田
開始時期	田植後4週間までに中干しを開始	
実施期間	3～5日間程度	5～7日間程度
仕上げ程度	長靴が沈まない程度 (田面に小さな亀裂ができるまで) 	強めの中干し (田面に大きな亀裂ができるまで)

◎5月15日田植えの作業の目安

6月5日頃 (田植後3週間頃) 軽い田干し開始	6月12日頃 (軽い田干し開始後1週間頃)
浅水管理	溝掘り ⇒ 中干し開始

【中干し完了時の目安】

干し過ぎは、稲の生育にダメージを与え、穂数の減少につながります。
数回に分けて適度に田干しを行いましょう！



ほ場中央部で、くるぶしまで沈む程度

裏面へ続く

中干し後の水管理

- 中干し後から幼穂形成期頃までは、湛水と落水を繰り返す間断かん水を行い、土中のうわ根をしっかりと伸ばしましょう。
- 土壌を乾かし過ぎると葉色の低下が大きくなるため、干し過ぎないように注意しましょう。
- 生育量が多い場合は、過剰籾数や倒伏を防ぐため、強めに田干し（落水期間を長く）をしましょう。
- 幼穂形成期頃までに足跡の深さ 3 cm程度の硬さに誘導しましょう。

ケイ酸質資材の施用

- 根の活力を高め、下葉の枯れ上がりを防ぐとともに、登熟向上や茎葉を丈夫にして倒伏や病気に強い稲体にするため、中干し終了後、ケイ酸質資材を施用しましょう。
- 特に、基肥一発肥料（肥効調節型基肥肥料）を使用している場合は、加里成分が不足するので、積極的に施用して下さい。

施肥体系（使用基肥肥料）		肥料名	10 a 当たり施用量	施用時期
分施	（なのはな有機基肥・基肥 5 5 5）	エスアイ加里らくだ	1 5 kg	6 月中旬～下旬
基肥一発	〔 Jコート早生専用、 Jコートコシヒカリ など 〕	エスアイ加里らくだ	1 5 kg	
		B B P Kケイ酸	2 0 ～ 4 0 kg	

※ R5 でケイ酸質資材を追肥した場合、1 等米比率が高くなりました

後期除草剤の散布

- 雑草が残った場合は、雑草の葉齢を確認し、遅れずに散布しましょう。
- 湛水散布する除草剤は、除草効果を高めるため散布前に軽い田干しを行い、水を入れ替えてから散布しましょう。
- 除草剤散布の際には、周辺の作物に飛散しないよう注意しましょう。

◎除草剤使用基準（移植水稻の場合） ※除草剤は使用できる期間が決まっています。ラベル内容をよく読みご使用ください。

雑草の状況	除草剤名	10a当たり散布量	散布時期	使用回数	使用上の注意
ノビエが残った場合	クリンチャー 1キロ粒剤	1 kg	田植後7日～ノビエ4葉期まで （収穫30日前まで）	2 回 以内	・ 散布の際は 5 cm程度に湛水する。 ・ 散布後 5 日間は湛水状態を保ち、7 日間は落水・かけ流しをしない。
		1 . 5 kg	田植後25日～ノビエ5葉期まで （収穫30日前まで）		
	シアゲMF 1キロ粒剤	1 kg	田植後20日～ノビエ4葉期まで （収穫60日前まで）	2 回 以内	・ 散布の際は 5 cm程度に湛水する。 ・ 散布後 5 日間は湛水状態を保ち、7 日間は落水・かけ流しをしない。
	トドメMF乳剤	200mℓ 希釈水量 100ℓ	田植後14日～ノビエ7葉期まで （収穫50日前まで）	2 回 以内	・ 落水散布または湛水条件で散布する。 ・ 湛水条件で散布する場合は、水の出入りを止め、少なくとも 3 ～ 4 日間は湛水状態を保ち、散布後 7 日間は落水・かけ流しをしない。 ・ 展着剤は不要
広葉雑草が残った場合	バサグラン粒剤	3 ～ 4 kg	田植後15～50日 （収穫45日前まで）	1 回	・ 雑草が露出する程度の浅水状態で、晴天が 2 日以上持続する時を選んで散布する。 ・ 散布後 3 ～ 4 日間は入水、落水しない。また降雨によって薬剤が流出しないよう水尻は必ず止めておく。 ・ 雑草の多い部分にスポット散布も可
ノビエと広葉雑草が残った場合	クリンチャーバス ME 液剤	1, 000mℓ 希釈水量 70～100ℓ	田植後15日～ノビエ5葉期まで （収穫50日前まで）	2 回 以内	・ 晴天日を選び、落水状態で雑草の茎葉に確実に付着するよう丁寧に散布する。 ・ 散布後 3 ～ 4 日は入水・落水をしない。 ・ 展着剤は加用しない。
	トドメバスMF 液剤	1, 000mℓ 希釈水量 70～100ℓ	移植後15日～ノビエ6葉期まで （収穫50日前まで）	2 回 以内	・ 晴天が 2 日以上持続する時を選んで散布する。 ・ 散布前に落水状態にして水の出入りを止め、均一に散布する。 ・ 散布後 3 ～ 4 日間は入水、落水しない。また降雨によって薬剤が流出しないよう水尻は必ず止めておく。
	ロイヤント乳剤（クサネム対策）	200mℓ 希釈水量 100ℓ	移植後20日～ノビエ5葉期まで （収穫45日前まで）	2 回 以内	・ 落水散布またはごく浅く湛水して散布する。 ・ 土壌水分が少ないと効果が十分発揮されない場合があるため、落水状態で散布した場合は、散布後 3 日以内に入水する。 ・ 散布後 7 日間は落水、かけ流しをしない。

★なのはな農協では、電子メールによる営農情報の提供を行っています★

< 情報提供内容 >

- ・ 栽培管理情報
- ・ 緊急的な気象情報や災害防止対策、栽培管理情報
- ・ その他必要と思われる情報

営農情報提供
サービスへの
登録はこちらから



春の農作業安全運動実施中
（3/1～5/31）

- ・ 農作業時は、シートベルトやヘルメットを着用するなど、農業機械の転落・転倒事故を未然に防ぎましょう。
- ・ 農耕車等で道路を走行後、泥落ちした場合は、泥の撤去をお願いいたします。